



令和4年4月19日に、全国一斉の全国学力・学習状況調査が行われました。6年生が調査の対象になります。現在の6年生は、4年生の時には、甲府市の少人数学習推進事業により、複数の教員による指導や、少人数での学習に取り組んできました。学習の定着度を把握するために、学校独自で4年生対象の学力テストを取り入れてきました。

全国学力・学習状況調査は、学力の順位をつけるものではなく、児童・生徒の学習の様子を検証し、教育活動を改善していくことを目的としています。本校は、全ての教科において全国・山梨県の平均値を上回っていますが、統計的な計算を参考にするならば、全国・山梨県・本校の平均値に「差はないに等しい」という結果が出ます。

地域や保護者の皆様に結果を報告いたします。児童の指導に役立ててください。

*1 得られたデータから効果量 (Cohenのd) を求めて、2標本の平均値がどれだけ離れているかを計算しました。全国と本校、全国と山梨県、山梨県と本校の平均値についていずれも効果量は0.2以下であり、それぞれの平均値は差がないに等しいと判断することができます。(全国学力・学習状況調査「平均ゾーンシステム」(https://ds-efa.info/data_analysis/)を参考にしました。)

令和4年度全国学力・学習状況調査の集計から



本校の「学力」の状況

まず、本校の「学力」の状況について、教科別に紹介します。本校の結果を見ると、全ての教科の全ての設問において、有意に全国を下回る結果は1つもありませんでした。全国のレベルに照らし合わせて、確実に学力が定着していると捉えることができます。

一つ一つの結果を精査して、他の設問に比べて誤答が多かった設問について傾向と対策をまとめました。



国語

自分の考えを文章にまとめて回答することが苦手な児童が多く見られました。書かなければならないことを書き落としてしまう誤答が多くありました。授業の中で、自分の考えをノートやワークシートに書く時間を意識して設けていく必要があります。

物語の登場人物の行動や気持ちについて考えることが苦手な児童が多く見られます。行動や気持ちを多面的に捉えられない誤答がありました。授業の中で、登場人物の行動や気持ちにつながる文や言葉に線を引かせたり、それを友達

と話し合わせたりすることにより、文章に書いてあることから、行動や気持ちを考えることができるよう導いていきたいと考えています。

漢字の問題に誤答が見られました。普段の学習の中で漢字の練習を増やすだけでなく、自分で文を書くときに学習した漢字を積極的に活用するよう指導していきます。



算数

おおよその数で計算をして、だいたいこのくらいかな、と見積もる問題で誤答がありました。多く見積もった方が良いのか、少なく見積もった方が良いのかは、場面によって異なります。日常の場面を想定して、適切な見積もりの仕方考える機会を与えていきます。

果汁20%のジュースを半分にすると果汁何%のジュースになるかを問う設問で、7割近い児童が答えを間違えていました。ジュースは半分の量になっても味は変わらないことなどを想起させながら、割合の意味を振り返らせていきます。

今回は、プログラミングに関する問題が出題されました。新しい思考力を必要とする問題です。今後は、1年生の段階から、計画的にプログラミング学習に取り組みます。



理科

実験器具の名前「メスシリンダー」を答えられない児童が多く見られました。また、鏡を使った実験で、光が直進することを答える設問で誤答が多くありました。いずれの設問も、実験や観察の機会を多く経験することにより身につく学習内容を扱ったものです。感染症対策のため、厳しい制約がありますが、工夫をして多

くの実験の機会を与えていく必要性を感じています。

グラフや表から必要な情報を読み取り回答する問題で誤答が多く見られました。これは、国際的な学力調査でも日本の子どもたちが苦手とする問題です。算数で学習するグラフや表の学習を算数の学習だけにとどめるのではなく、他の教科においても積極的に活用するよう意識して学習を組み立てていきます。



生活習慣や学習環境等の状況

「生活習慣や学習環境等に関する調査」結果として、全国と本校の平均値が報告されています。全国の平均値と本校の平均値との間に差があるのかどうかは、統計的な計算^{*2}で判断しています。

いに高め合うことは、現在の小学校教育がめざすところです。コロナ禍ではありますが、子供たちに様々な体験をさせる中で、学校をより魅力的な場所にしていくよう努力していきます。

「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」に対して「あてはまる」と答えた割合が全国よりも高い数値を示しています。今後も、児童が自分の良さや可能性を自分自身で認識できるように教員が関わっていきます。

「あなたの学級では学級生活をより良くするために話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」に対して「あてはまる」と答えた割合が全国よりも高い数値を示しています。学級の問題をみんなで話し合い、解決していく自治力が育っていると考えられます。今後も、お互いの生活や学習に良い影響を及ぼすような学級の力を高めていきます。

家庭での子供への指導が充実

「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」に対して「している」と答えた割合が全国と同程度に高い数値を示しています。多くの家庭で「早寝・早起き・朝ご飯」を実践していただいている、子供たちは良い健康状態と精神状態で学校生活を開始することができています。また、「携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」に対して、3時間以上と回答した割合が全国よりも低い数値を示しています。携帯電話等の使用に対しても、家庭での指導が行き届いていることが読み取れます。

「5年生までの授業で、ICT機器をどの程度使用しましたか」に対して、「週3回以上」と答えた割合が低く、「月1回未満」と答えた割合が高い数値を示しています。ICT機器の活用が教育の全てではありません。ICT機器の活用が教育の効果を高める場面では積極的に活用できるよう、2学期からは、具体的な数値目標を設定して取り組んでいます。

学校での学習・生活習慣

学校での学習環境や生活習慣に関する設問はたくさんありましたが、その中から、全国と比較して回答の割合に有意に差があったものを取り上げて報告します。

「友達と協力するのは楽しいと思いますか」に対して「あてはまる」と答えた割合が全国よりも高い数値を示しています。友達と協働して互

「国語の勉強は大切」「算数の勉強は大切」「理科の勉強は大切」と答えた割合が全国よりも高い数値を示しています。児童が学ぶことの意欲を実感できるような学習環境を整え、ICTなどの活用により学習する楽しさを味わわせながら、学習意欲を高め、確かな学力に繋げていきます。

*2 2つの比率の差を検定するために、カイ二乗検定の計算を行いました。検定には、keisan (<https://keisan.casio.jp/>) を利用しました。